

会議結果

次の附属機関等の会議を下記のとおり開催した。

附属機関等の名称	令和6(2024)年度第2回みよし市社会教育委員会		
開催日時	令和7(2025)年3月13日(木) 午後2時から午後3時45分まで		
開催場所	図書館学習交流プラザ「サンライズ」2階 多目的室		
出席者	(委員) 今瀬良江(委員長)、野口尚子、大村恵、鈴木誠直、堀本さなえ 欠席 近藤憲司(副委員長)、大地由美子、中村有里、岡本清則、 上田光宣 (事務局) 増岡教育長、富田教育部長、鈴木教育部副参事、岡田教育部次長兼学校教育課長、林教育部スポーツ推進監兼スポーツ課長、橋本歴史民俗資料館館長、二子石生涯学習推進課長、伊豆原生涯学習推進課副主幹、佐々木生涯学習推進課主事		
次回開催予定日	令和7(2025)年7月下旬		
問合せ先	みよし市教育委員会生涯学習推進課 担当者名 伊豆原 電話番号 0561-34-3111(直通) ファクス番号 0561-34-3114 メールアドレス gakushu@city.aichi-miyoshi.lg.jp		
下欄に掲載するもの	・議事録全文 ・議事録要約	要約した理由	
審議経過	別紙のとおり		

伊豆原生涯学習 推進課副主幹	本日は大変お忙しいところ御出席いただきまして誠にありがとうございます。定刻になりましたので、ただいまより令和6年度第2回みよし市社会教育委員会を開催いたします。 開会に当たりまして、最初に礼の交換を行います。恐れ入りますが、皆様御起立をお願いいたします。一同、礼。よろしくお願いいたします。御着席ください。 本日の会議はみよし市附属機関の設置及び運営に関する要綱第6条に基づき、会議の全部を公開としておりますので御了承いただきますようお願いいたします。 なお本日、近藤委員、大地委員、中村委員、岡本委員については事前に欠席されるとの連絡をいただいております。 それでは初めに増岡教育長が挨拶を申し上げます。
増岡教育長	皆さんこんにちは。年度末のお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。顔を拝見すると、今までのみよしの教育のために、皆さん本当に力を貸していただいた、発揮していただいた方ばかりで、この会を催すことができるのは大変嬉しいです。今日はどうかよろしくお願いいたします。 この冬は極端に雨や雪が降らない時期がずっと続いた後に、とっても寒い日が続くなどおかしい状況だったのですが、梅の木も去年は2月2日に自分の家の梅が開花しました。今年は3週間遅れました。ただ、3週間遅れてくれたおかげで先週、中学校はそれぞれ校庭の紅白の梅が咲きそろって、子供たちの門出を飾ってくれたので悪いことばかりじゃないなと思いながら過ごしているところです。 今回中学生は市内で617人が旅立っていきました。私学に行っている子もいるので、数はもうちょっと居ると思いますが。それに対して、実はこないだ議会の中で出た数字ですけども、令和6年にみよしで生まれたお子さんが420人だそうです。出生数が実は僕が小学校卒業するぐらいのときの数か、いやそれより少ないか、などそんなことを、昭和50年前後の数になってきてしまったのではないかということを感じたところです。今回市役所の方は議会が佳境を迎えているんですけども、社会教育委員会の教育委員の皆さんにはこの数字をお伝えするといいいかなと思ったものがあったので御紹介します。 こども会や子育てクラブ、ジュニアクラブなどの青少年健全育成の補助金をこども政策課が出していますが、申請されたこども会が以前は19あったのが今年は12、子育てクラブが18あったのが14、青少年健全育成に関しては22から10に、それぞれ減少したということで、市の補助を受けなくても行政区等で賄っているならいいですが、どうもそうでもなさそうだということで、私としてはみよし市から地域の繋がりがなくなってしまうのではないかとということをお大変危惧しています。詳しいことは調べてみないと分かりませんが。 そんなみよしの情勢になっているということを1つ皆さんにも御紹介したいなと思ったところです。 自分自身は議会の開会日に教育行政方針について説明する中でこうやって言いました。「子供自身が地域の一員として自分が役立っていることを自覚し、ふるさとに愛着と誇りを持って成長することや、保護者や地域住民が子育てに参画することに喜びを感じ地域の繋がりと希望をより強固にしていくことをねらいとして学校を核とした地域づくり、共育（ともいく、きょういく）を更に進めていきます」と、加えて、「地域学校協働本部を中心に、学校運営協議会や既存のPTA、こども会、子育てクラブ、ジュニアクラブ等々の子育てに関わる団体の活用や役割について、部局や課を越えて整理検討をしていきます」とお約束したところです。 社会教育の目指すところはやはり人と人の繋がりを作って、住民一人一人の心身ともに豊かな生活と幸せをつくり出していくことだと思いますので、みよし教育プランが目指す理念や人間像と同一線上にあるものだと思います。

伊豆原生涯学習 推進課副主幹	今日は、自分の資料として教育行政方針を1枚にまとめたものをお持ちしました。皆様にお配りはありませんが、その中で、社会教育に関係すると思ったものは赤にしてみました。このみよし教育プランを実行していくということはやはり社会教育を進めていくことだ、ということをお伝えしたいなと思って御紹介させていただきましたが、本委員会が関わる守備範囲が実はこんなに広いのだと、例年だとこの会は、こんな講座をやりましたという報告に終わっているのですが、今回はそれに加えて、私が発表した教育行政方針や、今策定を進めております次期の教育振興基本計画の進捗状況なども皆さんに御紹介いたしますので、冒頭に述べさせていただきました。本市の危機的な状況も踏まえて、今一度地域の繋がりを取り戻す、また、新しい繋がりを作っていくと言った方がいいのかなと思っています。そのために、皆さんの忌憚のない御意見がちょうどできたらと思っています。本日はどうかよろしくお願いします。 続きまして、今瀬委員長に御挨拶をお願いいたします。
今瀬委員長	改めましてこんにちは。冒頭から教育長の熱い思いを受けてしまったわけですが、年2回の社会教育委員会会議で何が私たちにできるだろうと思った時に、この2回の中で気づいたことを忌憚なく市の方に伝えて改善或いは提言、助言をしていけばいいかなと思っています。ただ、私も社会教育委員になりまして、自分が事務局側の立場だった時にあまり勉強してこなかったことを反省しまして、今年度たくさんの講座や研修に出させていただきます。その中でやっぱり社会教育委員っていう立場の重要性とか、2回では少し厳しいものがあると感じました。私たちがより良いものにしていくにはもう少し出会う、集う機会をもって、本市の社会教育について理解し、それぞれの立場で、家庭教育、社会教育、生涯学習、文化的な面に様々な立場で提言するには、もう少し社会教育委員会会議のあり方を考えていかなければならない時になったということも思っておりますので、また事務局と一緒に相談していきたいと思っております。 今日教育長が、繋がりが大事だと言われたときに、私一昨日すごく良いものを見させていただきました。三好中学校が「みよchu'sFuture（旧みよ中大学）」といってキャリア教育の一環で、三好中卒業生の大学生が今自分はこんな将来に向かってこんな学部を選んで、こんなこと勉強をしている、今年からは大学生に加えて社会人にも参加してもらい、社会人でどのようにして自分が職業人として人生を送ってきた、そしてその間にこういう特色があるということを伝える会がありました。大学生が20人、社会人が11人出席していました。それで三好中学校の考え方は、進路指導として将来像を見据え、ではその手前の大学はというようなコンセプトの中で、今年初めて大学生と社会人をつなげました。更に驚いたことは大学生がその会を取り仕切っていたのです。実行委員会20人ぐらいの中に大阪の子がいたり、県外の子はZoomで参加したり、どんなふうに持っていくかということで、司会だとか中学生に伝えたいこともすごく熱い言葉で語っていたのです。三好中学校の卒業生です。ちょうどその子達はsince70という70周年から三好中学校が新たな学校づくりを始めて関わり合いとか学び合いとかそういうことで誓っていたこどもたちなんですね。その会に地域学校協働活動推進員さんたちが、受け付けとかをお手伝いしてみえた。だから本当に良い繋がりを持つ、そして地域で、みんなで、大学生は後輩を育て、大人はまた大学生や中学生を育てようという、そういう思いのいっぱい詰まった良い会だったなと思います。 でもそういう会をやるためにはやはり予算が必要で、それから一肌脱ごうという手弁当でそういう熱い思いを持った人たちがエネルギーを出していないと多分回っていかないだろうな、こども会やジュニアクラブもそうだと思います。忙しくて大変な中でそれが大事だねというような、ちょっと一肌脱いで頑

	張ろうぜ、そうするとその先良いことが待っているよ、というような人たちを、行政も私たちも一緒になって見つけたり、つなげたり。意外とたくさんいますよね、NPOで慈善、手弁当で、もう全く給料もらわないけど自然のために頑張っている人、或いはいきいきクラブでは本当に部活動が盛んで、そういう人は講師料をもらっているわけじゃないけど、地域の住民が楽しく過ごすようにということで講座を開いている。熱い思いを持っている人たちもたくさんいるし、教育長が目指すような本当に温かい繋がりを持ってみんなで子供たちを育てる。そして自分たちも豊かに生きていこうと、そんなまちづくりができるかなと思っておりますが、今日は委員の人数が少ないので皆さんたっぷり意見が出せると思いますので、どんどん伝えて行政側のさらなる改革を願っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
伊豆原生涯学習推進課副主幹	ありがとうございました。 本日追加資料を席上に配付しておりますので御確認をお願いいたします。まず、現行のみよし市教育振興基本計画みよし教育プランの概要版と改訂版、次にみよし市生涯学習講座の春夏講座のチラシ、次に愛知県社会教育委員連絡協議会から送付がありました社教情報No.92と、社教連会報のNo.96を席上に配布させていただきますのでよろしくお願いいたします。資料は以上になります。足りない場合は事務局へお申し付けください。よろしかったでしょうか。 それではここからは、みよし市社会教育委員会条例第6条第3項の規定により、委員会の取り回しを今瀬委員長にお願いしたいと思います。今瀬委員長よろしくお願いいたします。
今瀬委員長	時間がない中で盛りだくさんですので効率よく話し合いを進めていきたいと思ひます。それでは会議の進行につきまして、皆様の御協力をお願いいたします。本日は、傍聴人はございません。 では次第に沿って会議を進めます。次第2、協議事項に入ります。初めに(1)令和6年度社会教育委員活動報告について事務局より説明をお願いいたします。
二子石生涯学習推進課長	生涯学習推進課二子石です。資料1、1ページを御覧ください。 令和6年度の社会教育委員活動報告をさせていただきます。表のNo.1、令和6年4月9日の愛知県社会教育委員連絡協議会西三河支部理事会に、今瀬委員長が愛知県社会教育委員会連絡協議会の監事も務めていただいております。その会議が岡崎市にある愛知県西三河総合庁舎で開催されましたので御出席をいただいております。なおNo.6、7、10についても、今瀬委員長に御出席いただいております。No.2につきましては安城市におきまして、愛知県社会教育委員連絡協議会評議委員会並びに総会が開催されましたので、今瀬委員長と野口委員に御出席をいただきました。No.3につきましては、碧南市におきまして、愛知県社会教育委員連絡協議会西三河支部総会・第1回地区研修会に今瀬委員長、近藤副委員長、野口委員、大地委員に御出席いただきました。なおNo.5、8、9につきましても、今の4名の方に御出席をいただきました。No.4につきましては、サンライブにおきまして、第1回みよし市社会教育委員会を開催いたしまして、今瀬委員長、近藤副委員長、野口委員、大地委員、中村委員、大村委員、岡本委員、鈴木委員、堀本委員の9名の委員に御出席をいただいております。No.11につきましては、本日の第2回みよし市社会教育委員会となります。以上、簡単ですが令和6年度の活動報告とさせていただきます。
今瀬委員長	ただいまの説明に対して御意見、御質問ありましたらお願いします。よろしいですね。 では次に行きます。続きまして、(2)令和6年度社会教育生涯学習活動報告

	について事務局より説明をお願いいたします。 学校教育課長の岡田です。よろしくお願いします。 それでは私からは学校教育課の事業につきまして御説明させていただきます。それでは3ページをお願いいたします。家庭教育学級でございます。家庭教育力の向上を目的としまして小学校単位で事業を実施しております。令和6年度には市内5つの小学校で御覧の内容の事業を実施させていただきました。令和6年度では学校からいただきました御意見をもとに、実施要領で規定する要件の参加人数や学習時間の緩和をいたしました。P T A役員の負担が大きいことや、参加者が少ないなどの課題も挙げられております。また事業費としまして、講師の謝礼を1回2万円、1校あたり4万円を限度にお支払いできることとしておりますけれども、講座を開催した場合に、講師への謝礼は出すことができますが、材料費などの必要経費をこちらの方の事業の方から出せないということになっており、このことについて御意見をちょうだいしているところでございます。 続きまして、4ページを御覧いただきたいと思います。思春期家庭教育学級でございます。先ほどは小学校単位ですがこちらは中学校単位で事業を実施するものでございます。令和6年度には3つの中学校で御覧のような講座を開催していただいております。開催しました中学校からは概ね良い御意見も伺っておりますが、北中学校におきましてはP T Aの加入者数の減少などによりまして、開催することは困難であるというふうにお聞きしております。 小学校中学校いずれの事業におきましても、P T Aの加入者数の減少、役員の負担軽減などによります活動内容の見直し、こういった問題がございますのと、特に小学校から聞かれます事業費への御意見などを踏まえまして、随時見直しを図って参りまして、より皆様に目的達成のためということとはございますけれども、事業を実施しやすいような内容のものに検討して参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。以上でございます。
今瀬委員長	全部通した方がいいか、課ごとがいいですかね。委員の皆さんどうですか。
大村委員	課ごとに質問をさせていただいてもよろしいでしょうか。
今瀬委員長	そうですね、課ごとに行います。では大村先生、どうぞ。
大村委員	すみません、延べ出席者数がありますが、例えば三好丘小学校が受講者数20人で、延べ出席者が400人で、でも回数は1回ですね、これはどういったことでしょうか。その次のページの中学校も三好中学校が、受講者数47人で延べ出席者数が507人。南中学校も受講者数16名、139名と。
岡田教育部次長 兼学校教育課長	資料の内容については確認をさせていただきます。
今瀬委員長	受講者数は、児童生徒数加えないでP T Aと保護者の数ではないでしょうか。
増岡教育長	この数から推測すると、受講者数が大人で、延べ出席者数はこどもの参加者かもしれません。
岡田教育部次長 兼学校教育課長	それについて確認しますけど、おそらくそういうことかなと思います。
今瀬委員長	他によろしいですか。私からも意見でいいですか。

	私、思春期家庭教育学級を北中がPTAの加入数が少ないということでやらなかったということが心配です。家庭教育の大事な講座なのに、PTAへの加入の有無は関係なしに親御さんとの勉強会というような形で開催できないのかなと。PTAの事業ではないのかなと。その辺の予算の配分の仕方、PTAへの主催の行事に配布するから、PTAの行事ではないから、家庭教育学級は開きませんというような、そういうふうになるのかなあと考えていますが、やはり思春期講座って大事と思うので、その辺の予算の出し方とか、どう考えてみえるかなということをお願いします。
岡田教育部次長 兼学校教育課長	開催についてのところで、学校が主催といいますか、学校が主となって動いてらっしゃるかなと思うのですが、人数を集めるといったところでPTAの方々の御協力を得てやっているところがあるというふうにお伺いしておりますので、私どもの方で人数要件など多少緩和しておりますけれども、なかなか人数を集めるところの難しさとかがあると学校からも聞いております。
今瀬委員長	やはり家庭教育学級は大事だと思うんですね。中学校はそういう機会がないと一部の人がしか参加しないとしても、どうやって家庭教育について保護者の啓発を図っているのかなと、それに代わるものがあれば良いのですが、人数が少なくして形骸化しているかもしれないけれども、やはりこの数人が聞いたことにより、また良くなる可能性もあるので、その辺の考え方を少し正していく必要があるのかなって思いました。
大村委員	関連してよろしいですか。この思春期家庭教育学級というのはPTAを通した事業なのでしょうか。
岡田教育部次長 兼学校教育課長	必ずしもPTAを通して、通さなければならないということはないと思いますが、家庭教育なのでやはりPTAと協働して事業を実施されていると聞いています。
大村委員	協働するというのはとても大事なことですけども、参加者が別にPTAの会員に限らないとすると、PTA加入者が少ないから行わなかったというのは少し違うかなというふうに僕も感じました。PTAと連携していく方が僕はいいと思いますけども、加入数が少なくなれば、逆にPTAに入るとこういった講座に参加もできるというアピールにもなると思いますし、加入が少なければ少ないほど、むしろやった方がいいというふうに思いますので、またお考えいただければと思います。
今瀬委員長	こういう意見があったということを校長にも伝えてください。
鈴木委員	私、中部小学校の所属ですけども、本校においてもPTAは非常に多くの方に加入していただけていますが100%ではないという状況で、ただ本校の場合はやはり家庭教育学級はPTA主催という形で行っていました。PTAの役員の方たちは非常に熱い思いを持ってみえて、こういうことをやっているのだからPTAの活動が非常に意味のあるものだよと実感してもらうものは何かないかなということで、本年度は星を見る会というのを開催して、資料の表記は受講者数90人、延べ出席者数120人とありますが、当日参加もいいですよとしたところ、もっと多くの方に来ていただけていて、うちのPTAは今年度とにかく子ども達や保護者の方に喜んでいただけるような会をしたいという気持ちを持ってやっていただけていたので、非常にこの会は大事だし、いい機会であったなあとことを思います。 ただ一方で、PTAの主催で本校の場合だとPTA会員じゃなくても別にい

岡田教育部次長 兼学校教育課長	いですよというふうにしていますが、御遠慮される方もいるというのが実際あるかなと思います。 それから、来年度の予算が3万円になったというようなことを耳にしたんですが、そのあたりはどうだったのでしょうか。 すみません把握しておりませんので確認をさせていただきたいと思います。
鈴木委員	自分の間違いだったら申し訳ないです。4万円から3万円にというような話をどこかで伺ったような気がします。
今瀬委員長	4万円に関しても私の記憶だと減らして4万にしたのですよね。各学校順番に大きな予算を渡して大々的にやっていたのを、平準化して各学校4万円にしてやることとなったのが数年前だったと思います。だからあんまり大きな会はできないけれどもそれなりの会はできるというので、それが減ってしまうとまた困りますよね。その辺確認してください。 よろしいでしょうか。では次に移ります。スポーツ課の方お願いします。
林教育部スポーツ推進監兼スポーツ課長	スポーツ課長林です。よろしくお願いします。5ページをお願いいたします。スポーツ課で開催しました生涯学習活動でございます。1番の親子体操教室は定員45人のところ、前期が9組18人、後期が8組16人と大きく定員を割れてきました。年々減少しているというのが現状ですけれども、少子化の影響と親が働き始めているというところが要因ではないかと認識しております。 2番の幼児対象教室は年中さんを対象とした教室です。定員65人に対して前期36人、後期42人とこちらも減少傾向にあります。少子化の影響と思っております。 3番の成人のスポーツ教室につきましては定員20人に対して前期16人、後期は20人で定員に達するようになりました。曜日を変更して、参加しやすい曜日にするなど工夫をしていきました。 4番のカローリング交流会はスポーツ推進委員が主体となって、高齢者、障がい者、こどもができるスポーツを体験してもらう場として開催しています。参加者が61名で、ターゲット層の年齢層の市民に参加していただいている状況です。課題は障がい者の方にも来ていただきたいということで、そちらへのアプローチが必要かなと感じております。 5番のカヌー教室は、カヌーシーズンは半年間ですけど継続してカヌー教室を行っています。定員は10人ですが超えても受け入れるようにしていますので、小学生はカヌーをだんだんできるようになって楽しんでいき、中学校になるとカヌー部に入ってもらおうというような子が多いと聞いております。課題は安定したカヌーの指導員の確保というところになります。 6番のみよしスポーツ祭2024は、午前中に地区対抗競技として以前の体育祭のやり方をやっております。地区対抗競技を2種目から3種目に今回増やして実施しましたが、反応が良かったというふうに聞いております。行政区25行政区のうち18行政区が参加してくれています。まだ5行政区が参加できていないので、そちらへのアプローチが必要かなというふうに思います。 7番のみよしレクリエーションスポーツフェスタは、スポーツ推進委員が主体となってレクリエーションスポーツを体験できる機会を作っております。こちらも障がい者ができるような種目を取り入れていますので、3団体ある総合型スポーツクラブと連携して行われているという状況でございます。 8番の令和7年の新春みよし市マラソン駅伝大会は前年、すごく人数が減っていて1,122人でしたが、様々考えて参加者を増やすことができました。1,898人で776人増やすことができました。課題は人件費と物品費が上がってきまし

	て、今までの金額ではなかなか難しいというところがあります。また、ボランティアの協力が不可欠なイベントでございます。230人ぐらいのボランティアで運営していますが、こちらの確保が課題になってくると思います。 8番9番10番、こちらは総合型地域スポーツクラブです。これはみよし市が地域でスポーツができる体制を作るということで、クラブを北と中と南と3つ作りまして、皆さんができる機会を作っております。課題は三好ともいきスポーツクラブさんが東海学園大学さんのクラブになり、連携がまだできてないのでこれから考えていきたいというふうに思っております。以上です。
今瀬委員長	スポーツ課の方についても随時質問とか御意見とか伺っていきたくと思いますすがいかがでしょうか。
大村委員	カヌー教室でそれぞれコースごとに日程が2日とか3日あるけれども、回数が1回ってこれはどういうことでしょうか。
林教育部スポーツ推進監兼スポーツ課長	日数が3日で、1個のこのコースの日に対して3日間ですけど、日にちを1回というふうにとらえてもらえるありがたいです。書き方が悪いですけども、実際、コース1が3日間行われていますので3回のことを言っていると思います。
大村委員	そうすると延べ人数がもっとたくさんあるはずですね。
増岡教育長	参加者13人が3日に分かれているということで、定員13人が3回来たら39人になりますからね。
林教育部スポーツ推進監兼スポーツ課長	すみません。この書き方が悪いかもしれません。申し訳ございません。
今瀬委員長	どうしますか、延べ人数はどうかというと大丈夫ですか。
林教育部スポーツ推進監兼スポーツ課長	確認します。
今瀬委員長	では、また後でお願いします。他はよろしいでしょうか。
大村委員	幼児の対象教室が減少傾向であるということで、今御説明あったように少子化とお母さんで働く人が増えてきたとおそらくそうだろうなと思うのですが、そのようであれば水曜日の開催を土曜日とか日曜日に変えるってことはできないかというふうに思ったのですが、いかがでしょうか。
林教育部スポーツ推進監兼スポーツ課長	検討しながらやっていきますけど、ただもうこの事業は来年度無くなりましたので教室ができないという状況です。
今瀬委員長	他にはいいでしょうか。
鈴木委員	カヌーのことですけれども、ここに挙げていただいていることとは別になるのかわからないのですが、各学校に来ていただいてカヌー教室を開催していただいているというのがあって、本校は毎年お願いしていて、先日も新開さんが

	来ていただいた時に、「来年も絶対ありますのでお願いします」とお願いしているのですが、カヌーのまちみよしというのはこれからもずっと変わらないことだろうなと思った時に、こどもたちには小学校の内に1回乗せてあげたいなという思いがすごくあります。ですので、その良さをもっとアピールして、カヌー体験は全部の学校でやっていないのではと思うのですが、それはもったいないことと思います。1回のカヌー体験で僕は中学校からカヌー部に入ると言う子もいます。この1回の体験がすごく大きいのでそこをアピールできるといいなと、場合によっては中学校でもやっていいのかなとか思ったりもします。
今瀬委員長	最初やり始めたときにゼロからのスタートでだんだんと増えてきたと思います。だからぜひ伝えて欲しいのと、この実績はスポーツ課か、カヌー協会になりますか。
林教育部スポーツ推進監兼スポーツ課長	カヌー協会です。
今瀬委員長	一応スポーツ課から出す資料となりますので、実績として載せれば良いと思います。
林教育部スポーツ推進監兼スポーツ課長	そうですね。前年の実績は把握しておりますけども今年度の実績はまだです。
増岡教育長	この資料は講座としてやっていることしか載せていないですよ。
林教育部スポーツ推進監兼スポーツ課長	そうですね。
増岡教育長	出前授業とか他にいっぱいあると思います。
今瀬委員長	そういうのも何か皆さん知ってもらう機会があるといいですよ。
増岡教育長	様々なところとパートナーシップ協定を結んでいるので、今年はベルヴリッツがラグビーやるとかたくさんあるし、地域でトヨタ自動車の野球部の応援にバスを出していったというのもあったし。
今瀬委員長	いわゆる社会教育の推進とか生涯スポーツの推進という意味でも講座の実績だけでなく、啓発活動とか推進活動とか構想しているものも載せていくと実績になるのではないかなと思います。 それから私、総合型スポーツクラブに入りました。出てみて分かったんです。会場を地区の公民館で、今日も夜7時にあります。80歳過ぎの私より先輩の方からちょっと若手の方、それから御夫婦でとか、本当にヨガをやったりエアロをやったりしてそれで集って、そして私同級生と一緒にになって70歳過ぎて、しゃべって、これはいいなと、だから地域スポーツクラブへの支援も大切なと思います。特に、三好さんさんスポーツクラブやなかよしクラブって地元根づいて皆さんが集っていて、いまだに体験入学に見える人が見えて、私はこの秋から入ったんですけど、会場がいっぱいになるぐらいで、毎週のようにどなたかがみえていて、だんだん育ってきたなと思うので大切にずっと支援して欲しいと思います。

林教育部スポーツ推進監兼スポーツ課長	ありがとうございます。
今瀬委員長	スポーツ関係についてはいいですか。
岡田教育部次長兼学校教育課長	すみません。先ほど御質問いただきました予算の件ですけれども、これまで4万円でしたが、令和7年度は1校あたり3万円に予算が減額されてしまいました。理由といたしましては、事業費全体の執行状況を見たときに、4万円限度がございましたが、限度まで使っている学校が少なかったというか実績の額が低いというのが理由にはなっております。しかし、学校側の必要に応じまして必要な予算の獲得には努めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。
増岡教育長	これはもう鈴木誠直先生たちに言っていたかないといけないですが、使わなかったら実績ベースで削られていってしまう、全校分取ったやつが減らされてしまうので、必要だからみんなで使っていこうと声をかけさせていただきます。
今瀬委員長	次の方に進めます。生涯学習推進課の方からの説明をお願いします。
二子石生涯学習推進課長	では8ページを御覧ください。文化事業委託事業の説明、活動報告をさせていただきます。こちらの事業につきましては市が文化協会の方にお茶会や文化展文化祭、公募美術展等の行事の委託開催をお願いしているものでございます。この中で特に、3番5月25日の芸能発表、7番11月2日の芸能発表で、どちらも芸能発表ですけれども、11月2日の発表につきましては、今まで生涯学習活動団体というものがあまして、冬の別の時期に文化協会とは別に同じカネヨシプレイスで芸能発表や生涯学習発表というような形で発表の場を持っていたのですが、今回11月2日の芸能発表のタイミングに1つにまとめて開催をいたしました。1つにまとめたところ、今まで閑散としていた客席が結構埋まりまして、出演者からも観客が増えてやりがいがあったと好評でございましたので、7年度から継続してまとめて開催という流れでいきたいと考えております。2つの開催を1つにまとめることにより、今まで文化協会の会員が減少傾向でありましたけれども、生涯学習団体が文化協会の方へ加入していただけるという話もございますので、文化協会の活性化にもつながると見込まれております。 続きまして10ページを御覧ください。読書啓発事業でございます。読書を通じて文化教養を高め、感性を養うことを目的に開催しております。5番の絵本作家と噺家が新美南吉を語るですが、こちらの事業は絵本作家が書いた絵を噺家が説明をしながら作品を語る切り口で開催をいたしまして、多くの方に新美南吉作品に興味を持ってもらいました。 6番の石川家住宅で聞く昔話ですけれども、こちらは初めての試みということで、資料館の管理しております石川家住宅をお借りしまして開催したものでございます。古い建物の中で読み聞かせボランティアの方により昔話をさせていただきまして、子供たちに楽しんでもらえたイベントでございます。 8番の伝える伝わる話し方につきましては、東海テレビの御協力によりまして、庄野アナウンサーにお越しいたしまして、発声や話し方の講座を行ってもらい、参加者の皆さんが聞き入っているような状況でございまして、いずれも多くの方が来場し、満足しておられました。 続きまして12ページを御覧ください。勤労文化会館維持管理事業でございます。この事業につきましては、勤労文化会館の指定管理者が開催する文化振興

	を図る自主事業となります。特に子供向けの4番、5番、8番、10番のイベントに多くの集客がありました。また、鑑賞だけではなく参加もできる7番、12番のイベントにつきましては、参加者から体験できてよい機会であったと好評でございます。 続いて14ページを御覧ください。芸術文化合唱交流事業でございます。令和6年度につきましては、今まで開催しておりました市民合唱交流会に楽器演奏を加えまして、第1回音楽祭として開催をいたしました。来客者数は、市民合唱交流会に比べ大幅に増加し、1日中多くの方に音楽に触れ合う機会を提供できました。ただ、出演団体の方から観客の立場でも他の出演団体を見たい等の意見や音楽祭の開催についての企画力不足の課題がありましたので、令和7年度につきましては、音楽イベントに精通した業者に委託して開催をしていく予定でございます。 ここですみませんお詫びです。15ページは各委員の皆さんにあらかじめ郵送をさせていただいた資料ですが、14と15、同じ内容のページが載っていますので、削除をお願いします。お詫びいたします。 16ページを御覧ください。みよし悠学カレッジ講座運営事業でございます。各種講座を開催し、学習の機会の提供や参加者同士の交流を図る事業でございます。お手元に配布した募集パンフレットによりまして年3回募集をし、開催しております。広げるとA3カラー版でなるものでございます。今お手元に置いてありますが、2025年の春夏講座分の募集用チラシとなります。こういった形で年3回春夏講座、秋冬講座、新春講座ということで、全3回チラシ等を作成して、参加者を募っておるところでございます。講座の傾向でございますが、講座につきましては、料理系、特にクリスマスシーズンやお正月といった季節にあった料理、ヨガ等の健康を維持するような講座は申し込みの倍率が高い傾向がございます。また、パソコン等を用いた画像処理や対話型AIなどの新しい技術に関する講座も人気が出てきております。講座を受講する年代別といたしまして、50代の方が28.4%、60代の方は27.3%と、この世代だけで見ても過半数を超えており、若くなるほどこういった割合が減っている傾向がございます。よって令和7年度につきましては、若い人向けの講座を新しく企画していく計画でございます。地区別でも統計を取らせていただきましたので、併せて御報告をさせていただきます。地区別につきましては、おかよし地区が44%と最も高く、次いでなかよし地区の25.9%、きたよし地区の10.7%、みなよし地区は9.2%、あとは市外の方となっております。おかよし地区につきましては、令和5年度からおかよし交流センターでも生涯学習講座を開始したことも増加要因の1つとして考えられますので、令和7年度の秋にみなよし交流センターが開館いたしましたらそちらでも生涯学習講座を開催することを計画していきます、受講機会の向上を図って参る予定でございます。以上です。
今瀬委員長	生涯学習関係については質問等いかがでしょうか。 みなよしに住む住民としては交流センターができて、そこで講座が行われるというのは大変期待しております。歩いて行ける場所にあっていいなと思っています。 多岐にわたるものが出ておりますがなにかございますか。
堀本委員	今のお話の中で、古いおうちでお話しするものですが、こどもたちが行ってお話を聞くことはできますか。幼稚園児を連れてバスで行って。
橋本資料館長	石川家住宅は見学できます。市内で近くのすみれ保育園などは毎年来ていただいております、小学校でも中部小学校や三吉小学校の児童たちも市役所と合わせて見学に来ていただいたり、様々な授業の中で来館したりしていただいております。できれば事前に連絡をいただくとスムーズに対応できます。今年、バ

	スで来られた団体もありましたが、進入路が狭いので注意が必要です。
堀本委員	ぜひお願いします。活用させていただきます。 もう一個いいですか。カヌーも幼稚園児って教えてもらえるのですか。
林教育部スポーツ推進監兼スポーツ課長	すみません。小学校3年生以上になります。
今瀬委員長	他にはよろしいでしょうか。
大村委員	延べ人数の確認をお願いします。24ページで102番の事業でTOEICものが受講者8名、回数3回で延べ36名となっていますが、これは間違いでしょうか。
二子石生涯学習推進課長	すみません、確認させていただきます。
大村委員	他にも少し計算が合わないなというのはいろいろありました。
増岡教育長	受講者数より少ない延べ人数がいっぱいありますからね。
今瀬委員長	確認をとということでお願いします。他の課もありましたので次の資料のときには数の確認をしていただかないと成果が見えてこないと思いますので。
大村委員	29ページの159番だと、受講者10名ですけども、延べが30人、1回しかやらないのにもあるのもあるので、御確認いただければと思います。
今瀬委員長	後はよろしいでしょうか。数字等の確認よろしくをお願いします。 では最後ですね、歴史民俗資料館の方よろしくをお願いします。
橋本資料館長	歴史民俗資料館館長の橋本です。私からは資料館の社会教育生涯学習活動の報告をさせていただきます。資料の30ページ、31ページをお願いいたします。事業名は資料館展示事業です。番号の1番から3番については、季節ごとに開催する企画展示会です。春は市内の遺跡、夏は昆虫、冬はひな人形をテーマに開催いたしました。なお、秋の展示については、空調設備の更新工事を実施したため、今年度については中止としております。 続いて4番につきましては、日進市との共催によりバスツアーを開催し、市内の福谷城跡、日進市の岩崎城など、戦国時代の城跡をめぐるしました。 5番と6番は縄文時代と同じ手法で黒曜石を使って矢じりを作ったり、土器片の形をしたクッキーを作ったりする体験講座を開催し、夏休み中の子供たちに親子で楽しみながらみよしの歴史や焼き物について学んでもらいました。 課題等につきましては、展示会については集客数が少ないとの御指摘をいただくことが多いのですが、来館者の状況を分析いたしますと、市内の方が概ね44%、市外の方が53%、県外の方が3%となっております。3%と聞くとちょっと少ないようにも感じますが年間に人数で言いますと150人程度の方が来館されており、みよしのPRや魅力を発信する施設として機能しているものと考えております。一方で市内からの来館者が少ないということは認知度やリピート率が低いということも考えられますので、さらに魅力的な展示やイベントを企画していく必要があると考えております。体験講座については昨年度と比較して申し込み者が大幅に減少しております。これは昨今の負担軽減やデジタル化の推進という流れの中で、地区の公民館や学校などからのチラシの配布やポス

	ターの掲示を断られてしまうケースも、多くなっており、市民の方々が情報を目にする機会が減少していることが要因と考えております。今後はデジタル社会の進展に期待をするとともに、資料館としまでもより多くの人に情報が届くような方策を考え、実行することが必要であると考えております。また人気の講座の回数を増やすにあたって、申込者が多いところで条件が変わってしまう場合があります、回数を増やしたりすることができない状況もありますので、こちらにつきましては現行の職員数や能力では限界が生じておりますので、安定的な開催ができる仕組みの構築や人材育成、職員のスキルアップが大きな課題であると考えております。 続きまして34ページの石川家住宅管理事業です。みよし市指定文化財である石川家住宅では、市民の方が講師となって自ら体験してきた遊びやおもちゃづくり、絵手紙や布草履づくりなどを伝承する歴史体感講座を開催し、明治時代に建てられた趣のある屋敷の中で、昔懐かしい生活の様子や遊び、ものづくりなどを体験してもらいました。課題等につきましては、石川家住宅の来館者の状況分析では市内の方が66%、市外の方が32%、県外の方が2%となっています。これらは市内の方が多く来館されておりますが、これは歴史体感講座の参加者、こちら資料の方は800、900名弱の方がおりますが、こういった参加者や御近所の方が多く来館されており、資料館とは逆にリピート率が高いと言えますが、来館者の固定化が問題と考えております。本年度は11月にNHKのテレビ放送があり、新聞記事が開催された日の週末などは、市内外から多くの方が来館していただき、大いににぎわった日もありました。 今後も積極的なPR活動や魅力のある企画を展開していく必要があると考えております。以上です。
今瀬委員長	歴史民俗資料館の報告について何か御意見御質問がありましたら。 地域の人と話していて気づいたことなのですが、猿投古窯の方たちが私の打越地区でも焼き物の講習会開いてくださったそうです。それで初めて知って、こんなものがあるのだということを感じた人が見えるので、地域のいきいきクラブの人数も減っていますけど、こんなのがありますよと宣伝すると皆さん理解が進むかなということを感じました。それから、福谷城の陰の山城ファンってたくさんみえるなということも気が付きまして、もう少し整備が進むと思いますけどどうまくアピールすると皆さん足を運んでくださるかなと思っています。 保育園幼稚園でも頼めば行っていただけますよっていうのがありますね。
堀本委員	はい、あると思います。
増岡教育長	この夏のクワガタやカブトムシは実物がありますので、これはこどもが喜ぶと思いますよ。素晴らしい、圧巻です。
今瀬委員長	この展示の時だけはすごい来館者が増えます。もう1,000人、2,000人ですね。これは昔からそうでしたね。でもだんだん展示がすごくなってきましたね。
増岡教育長	この間までやっていた雛人形もこどもたちと家の方と一緒に見て欲しいなあって思うようなものです。
堀本委員	雛人形は毎年お邪魔させていただいているのですが、このクワガタは知らなかったのでもたお願いします。
橋本資料館長	令和7年度は、昆虫展の開催予定はありません。申し訳ありません。

二子石生涯学習 推進課長	すみません、先ほど大村委員から質問がありました件です。24ページの102番、中学生から申し込みができるTOEICの関係ですけれども、回数3とございましたけれども、1回1時間半の講座を1日2回開催しておりましたので、延べ回数としては6回の開催でございます。受講者が8人ですので、最大でいくと8×6＝48なのですが一応36名の方の受講でございました。併せまして、29ページの159番の講座、自分だけのラインスタンプを作ろうになります。こちらは2月22日の土曜日なのですけれども、同じ講座を1日に3回開催したということでございます。3回×10名の方が受講で30人ということでございます。すみません、表記がちょっと悪かったので申し訳ありませんでした。
大村委員	そうすると、延べだけでなく受講者数も30人ということですか。
二子石生涯学習 推進課長	そうです。
今瀬委員長	多分この資料は公表で残っていく資料ですよ。
増岡教育長	これ1回全部きちっと精査してください。
今瀬委員長	それを残していってください。私たちは訂正で済むかと思いますが、今後もまた資料の方の作成の確認よろしく願いいたします。 ではトータル的に各課の報告について御意見や何か御質問がありますか。特によろしいでしょうか。
鈴木委員	ここに載っているもの以外でも学校の立場からすると、焼き物とか非常に多くの地域の方にも来ていただいております。昔の猿投古窯の話をしていただいたり、それから実際に地域の方に来ていただいてこどもたちと一緒に手助けしながら作ってもらったりという活動が大変ありがたくて、ぜひ続けていただけたらと思っています。
今瀬委員長	市からの事業が、また地域づくりの1つに繋がっていくという、そういう良さもあるのかなと思うので、厳しい読みですが予算削減に抗って戦って様々な事業展開をできればお願いしたいと思います。 各課の報告については以上です。 では続きまして、3令和7年度教育行政方針、令和8年度策定の教育振興基本計画の骨子について、説明をお願いしたいと思います。最初の教育行政方針について説明をお願いします。
鈴木教育部副参 事	学校教育課鈴木です。資料の32ページの資料3－1を御覧ください。こちらですが、3月議会で教育長が説明をさせていただいたものです。ページ数がかなり長くなってしまい、時間の関係もありますので、内容については割愛させていただきたいと思いますが、学校教育の部分、35ページ以降になりますと、生涯学習の振興という点、そして37ページ以降にふるさとみよしを作る市民を育てるといったことで様々な事業の方を進めているというところなんです。箇条書きで出させていただいておりますが、このような形で来年度のみよし市教育委員会の事業を進めておりますので、御承知おきいただければと思います。よろしく申し上げます。以上です。
今瀬委員長	箇条書きと言いつつも多いですけど何か御意見御質問がありましたらお願いいたします。 新規事業とかおすすすめという事業があったら教えて欲しいです。

鈴木教育部副参事	学校教育のところで安心できる居場所づくりというところがありますが、今不登校の問題がかなり大きいものがあります。その対応ということで本年度までも中学校で校内フリースクールとして教員の任用していたのですが、これを部分的ではありますが小学校の方にも広げて、教員の任用の方をしているところでもあります。その他、32ページのところにありますけれども、安心できる居場所づくりというところで、現在、みよし市教育センターの方でスクールソーシャルワーカーとして校長経験者の方に入っていて、学校をいろいろ回っていただいているのですけれどもそれに加えて、来年度からは新たに社会福祉士の資格を持っている方を任用して各学校回っていただいて、不登校、特にひきこもりの子たちのサポートというところの連携体制を強くして進めていきたいというふうに考えております。以上です。
今瀬委員長	ありがとうございます。教育行政方針についてはいかがでしょうか。
野口委員	教育行政方針32ページからで、全体に「こども」という言葉の部分ですが、ひらがなで書いてあるということで、私が昔学生だった頃にこどもの、「こ」は漢字で書いて「ども」を漢字で書くに従うみたいな意味だからひらがなにしたいなことを聞いたりしたときもあって、そのため「子」だけ漢字で書いて「ども」をひらがなにすると。今回「こ」もひらがなにしていることには何か意味があるのですか。
鈴木教育部副参事	みよし市の方で「こども」という表記については、昨年度からひらがなの「こ」で統一していこうということでもあります。
今瀬委員長	その理由はなんですか。
増岡教育長	その理由ですが、国がこども家庭庁を作ったときにひらがなを使うようになったので、それに合わせてうちも再編でこども未来部ができたのですが、こども政策課も含めてすべて文章はひらがな表記でいこうと決まりました。ただ、昔の固有名詞で漢字の「子」が残っているものは残してあります。
今瀬委員長	意味合いとして文章として日本語として伝えることについて、大村先生何かその辺の見解はありますか。
大村委員	表記はかなり揺れているところですよ。文部科学省は「子供」の「供」も漢字で書くというふうにしてきていますけども、厚生労働省は、漢字は「子」だけで今まで通り「ども」はひらがなという揺れがあるので、こども家庭庁は全てひらがなにするというふうになってきているのですけども、そこに何がいいかという理念はあんまりないですよ。ですから、みよし市はみよし市の考え方というのを打ち出されるといいかなと思います。
今瀬委員長	そうですね。意味合いをまた皆さんで確認してください。
富田教育部長	今言ったような感じのところで表記がバラバラになると見苦しいですから、みよし市役所としてひらがなにしますというふうに決めさせていただいたものです。他にも例があって「障害者」の漢字について、「障害者」の「害」の字のイメージがよくないので、みよし市役所では、「障がい者」は「がい」がひらがなで表記するようにさせていただいてまして、その流れの中で決めさせていただいています。

今瀬委員長	指導案の子供がひらがなになることはないですね。
増岡教育長	市役所から出るのがこの形でということです。
今瀬委員長	わかりました。 最後になりますが、教育振興基本計画について、御意見をいただきたいということもありますのでよろしくお願いいたします。
鈴木教育部副参事	まず本日配付しました概要版の方を御覧いただければと思います。こちらに現行の教育振興基本計画をまとめたものがあります。2枚めくっていただきますと、そういった10年間の20の作戦プラスワンということで示されているのですけれども、こういったものに取り組んでいったというところで、こちらを御覧になっていただきながら説明を聞いていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。現在の教育振興基本計画ですけれども、平成28年3月に策定されて、令和3年3月に見直しを行いながら、みよし市の教育の方向性を示し、これに基づいて事業を進めて参りました。令和6年度の今年度は、現教育振興基本計画策定時からの成果と課題の検証等、今後、令和8年3月に策定予定であります、新教育振興基本計画の骨子について教育振興基本計画推進委員会や庁内での作業部会で検討を進めて参りました。概要版のところに重点施策を示しておりますけれども、こちらについての成果と課題については、外部の専門家からも御意見をいただいております。中部大学の武者先生からは主に学校教育に関するとところについて、1番から13番あたりに御意見をいただいております。高く評価していただいたことで、作戦4番のところから専門相談員の拡充が図られたことで、手厚い支援となっていること。そして、作戦10から個別の指導計画の活用状況が100%となっていて、現場の先生方の並々なめ努力と熱意を感じているということ、続いて作戦11で、少人数学級について、国の要件整備の充実をひたすら待つことなく、市独自に創意工夫して積極的に取り組んでいることなどを評価していただきました。一方でこどもをめぐり取り組みのあらゆる場については、今後こどもの意見表明だとか参加の機会を続けるようにというような御助言もいただきました。 続いて愛知教育大学准教授の中山先生からは14から20にあたりますが社会教育や地域連携に関する御意見をいただきました。こちらで高く評価していただいたこととしては、作戦14でサンライズに加えておかよし交流センターなどにおいて新たに講座を開催して充実させていること、続いて作戦17、土器石器づくりなど、小学校への出前教室などが行われて学校との連携が進みつつあること、続いて作戦18や20ですけれども、市内のすべての中学校、小学校に地域コーディネーターが配置されつつあるというところで地域学校協働活動やコミュニティスクールを推進するための土台づくりが着実に進められているというようなことを挙げていただきました。一方で生涯学習講座については、働いている世代の対象の事業拡大のために、週末、祝日、夜間の利用者のニーズを対話により集めていくことや、市民のこどもたちに歴史の課題とその解決策について学習・調査・研究してもらうなど、資料館のあり方を検討する取り組みに、こどもたちの声を取り入れていくことや、今後は地域学校協働活動などにおいて地域コーディネーター同士の研修の場を設けていただくようにという助言もいただいております。 本年度は推進委員会を4回行ったのですが、教育振興基本計画推進委員の皆様からも多くの御意見いただきました。主な御意見としては、家庭教育力を高める必要があること。そのために、学校・家庭・地域の連携、繋がりをもっと強くしていくこと、その他ですが、絵本好きな子供をふやすための取り組みを進めて欲しいというような意見もいただいております。 続いて資料の38ページの3-2を御覧ください。これらの成果と課題を踏ま

今瀬委員長	えて次期の振興基本計画の骨子を作成しました。基本理念を「ともに学び・育ち・つながり・創る 未来のみよし」としました。これは学ぶこと、周りと繋がることで、みずからを磨き、自分も周りも地域もともに育ち、新たなみよしをみんなで作っていこうというメッセージが込められております。目指す人間像は「生涯にわたって自らを磨き、みんなと共に、心豊かな人生、時代、みよしを創る人」としました。 続いて基本目標ですが、以下の３点です。基本理念や目指す人件像を実現するため計画の基本目標を設定しました。今後ですが、来年３月の策定に向けて、重点施策や具体的な取り組みについて検討を進めているところです。 本日皆様には次期基本計画の骨子と現在の基本計画を御参照の上、次期基本計画の重点施策として、特に社会教育の視点から継続すべきもの、或いは新たに盛り込むべきものは何かといったことについて、御意見をいただけると大変ありがたいと考えております。よろしくお願いします。以上です。 御意見をとられても難しいと思いますので、こんなことが進んだらいいなとか、あんなことができたらいいいなという思いを自由に語っていただけると、それが計画に反映されていくかなと思っています。なにせ推進委員会の委員長の大村先生がいらっしゃいますので。大村先生は本当に最初からの関わりを持っていただいてこの改定版から10年たって、成果と課題が見えてきてということで、自分も関わらせていただいたのですが、重点施策を作ったのは見える化をしていかないと埋もれていってしまう。事業を並べただけではやったやらないで終わってしまう。だから、これぞと思うものをあげましょうということで重点施策を挙げました。ただ学校教育に関わる人が多いので学校教育のボリュームが多くなってしまって、全てにわたる教育振興計画で網羅していますが、ぱっと見ると学校教育とか子育ての関するところが重く感じるようになっていくかなというのがあります。そこら辺は次回どうされるかなと、そこがもう同じようなバランスで出していくのか、生涯学習とか生涯スポーツとかその辺の分野をもう少し細分化してくと、スポーツ振興とか生涯学習振興で見えてくるものがあるだろうし、家庭教育の分野も図にしても目につくようにしないと、埋もれて薄まってしまうので、やはり大事だと思う家庭教育が目につくところに出てきてもいいのかなと思います。やってはいるけど目につかないというのがあるので、その重点施策の出し方、出すのか出さないのか、出したらどういうふうに出すのかということによってアピールも変わってくるかなと思っています。 繋がりも大事ですので、地域の繋がりを大切にする仕掛けはやはり行政の方が一押ししないと難しいところがあるだろうなと思います。こんなことできませんか、こんなことやりますけどこの指とまれはありませんかというようなことやその仕掛けも大事だろうし、各自でやっている繋がりも、あそこがそんなことをやっていたのというような、情報交換もできるというのが繋がりができていいと思います。会議の場を持つと時間を取ってしまうので、みよしでこんなことやっているよとか、三好上でこんなことやっているよということがわかるといいのかなということも思っております。 郷土についてと言うならば、教育で共育（ともいく）・協育（きょういく）に郷土の郷を入れると郷土を大事する３つの教育っていう柱も出せないかなあと考えています。最後の方の「ふるさとみよしを作る市民を育てる」というところは、まさに「郷育」のところかなと思うので、郷土を知るとか郷土を愛する気持ちもそうだし、郷土を皆さんと一緒にともに育てていこうということも、生まれてくるのかなと思います。地域のコミュニティーをもう少し活性化することもあると思うので、そんな３本柱の教育ってどうか思ったりしています。 野口さんはどうですか。
--------------	--

野口委員	私の個人的な感想ですけれども、人との繋がりっていう大事だになっていうことをとても感じています。何かきっかけがあって、やはり繋がっていくといいなと感じるのは、家で仕事をしておりまして、お寺ですけれども、御主人を亡くされた奥様が泣きながらその悲しみを訴えてきたりとかそういうような経験があったときにこうやって話してくださるってすごいその人の気持ちに添えないかもしれないけど、でも何か聞いてあげることって大切でこの人は他に話す人がいたらいいけど、話す人がいなかったらどうなるんだろうとか思ったりするときもありますので、繋がるって大事だになって最近思いました。以上です。
今瀬委員長	鈴木誠直先生どうぞ。
鈴木委員	自分はやはり学校の立場というのがあって、こちらの一覧でいくと10番の個別の支援っていうところが大変大事だなと思っているところで、不登校や外国籍のお子さんへの支援っていうのは本校でも大変大きな課題となっていますが、先日、本校の外国籍のお子さんで家庭支援が必要なお子さんがいて、社会福祉協議会の石田さんが来てくださって、いろいろと話を聞いていただき、そしてちょっと動いてみるねってということで、それを県営中島住宅の中島行政区方に持って行かれました。結局何を考えていただいたかということ、その不登校の子の支援っていうのはきっかけで、それを元にした繋がりを作ろうってということで、地域の中島住宅の中にいらっしゃる協力してくれそうな方を集め、それから協力してくれそうな子供たちにも声をかけて、今度3月26日に子供たちが主催でそれを大人の方たちも支援をしていくような形でスタンプラリーだとか、1日楽しく過ごそうというような会を持っていただけということとを計画していただいて、大変本校としてはありがたく、それが私にとって社会福祉協議会の方からそういうふうになっていくと思っていたので、1例の紹介になってしまいますがそういう繋がりという方法もあるのだなと思っています。以上です。
今瀬委員長	堀本委員どうですか。
堀本委員	こども園を今運営していて、入園前の親子で通う教室ってというのは本当に申し込みが減ってきています。その代わりに預かりになる3歳になった時点でもう園に入園するっていう申し込みは昔に比べるとそんなにも多いわけじゃないですけど、増えているっていう現状があります。親子でいらっしゃいってことは、お母さんたちはもう働きたくて早く働いていきたい感じがある。私たちも一生懸命、お母さんも一緒に親子で来てスキップ取ってこうやってやろうよって言いたいんですけどその教室には来ない。3歳入園の時にもおむつは外せないって。いつまでもおむつを履いていたりとか家庭の教育がすごく変わってきていて、私たちも今、教育部門と保育部門と合わせ持った教育施設をしているので、どっちのお母さんたちも見ていると、すごく変わってきていると思います。昔は私立幼稚園でした。教育をしてくださいって親子でも来ますし、何かこちらから言えば、「はい、やります」という感じで、先ほど紹介した教育講座みたいなことをすると、100人ぐらいお母さんが集まったりとかする園だったんです。でも今はもう、講座はいいです、とにかく預かってくださいます的な感じなので、三好文化こども園でも、入園前の教室が全然埋まらないという状態になっているので、じゃあそっちにシフトをチェンジして、見方を変えていった方がいいのか、今園でも悩んでいるところです。
今瀬委員長	でもやっぱりそれでいいわけじゃないですよ

堀本委員	「いいですよ、預かります」って言ってしまっていていいものなのか、「いやいや、違う。こういうの大事」って言いたいですけど、なかなかそれは難しいことになっています。
今瀬委員長	小さい子も家庭も大事ですけど、老人たちも大事だってことがわかりました。来年度、連合会の研修予算がなくなって、皆さん楽しみにしていた研修旅行がなくなっちゃうんですよ。私は役員になったので、去年から初めて参加したんです。そしたらこんな人打越におったってという人たちも参加して、それで明知とかの他の地区の同じ小学校だった人たちと一緒にわいわいやりながらという機会が無くなってしまいます。2、3年前にカネヨシプレイスに集まって皆さんで芸能楽しむっていうのも無くなってしまいましたよね。だから子供も大事ですけど、高齢者への支援もだんだん集う場が奪われていくのかなって思うので人生100年、まちづくりは人づくり、人づくりはまちづくりで、100年の計画がスタートだったと思います。地域の行事にいろいろ顔を出すようになって、世の中こういうふうに動いていて、皆さんこうやって集って喜びを感じて、時々グループで集まって、ペアでやったりとか、ヨガやったりとかお花立てたり、打越の旧来の地区でも、どっかの方が見えて、配食で給食で届けたりとか、お一人暮らしの人がいて寂しくしていて、そういう人たちをどうやって引っ張り出そうか。なんかどっか安く行けるところがあれば出てくるかもしれないじゃないですか、そういう唯一の喜びを市は切ってしまったのだと思って、とても残念に思っているの、年寄りのことも考えたような、何か本当に元気な老人が増えるような、そういう仕掛けも教育の生涯学習の分野から何か仕掛けができればいいのかなって、いきいきクラブの会員からは思っています。 最後に大村先生何かありますか。
大村委員	今のお話の繋がりと言いますと、繋がりを作るって社会的孤立をどう減らしていくか、改善していくかっていうところはどこの町でも大事な課題だと思えますが、先ほど鈴木さんが言われた社会福祉協議会も地域福祉の戦略の中で社会的孤立を無くそうというそういう取り組みをされているので、社会教育もそうした地域福祉との連携ってとても大事だと思います。社会教育でどういう戦略を持っていくのかというのが大事だと思いますけども、教育振興基本計画とも関わりますけども、コミュニティスクールとか地域学校協働を軸に考えるっていうこともできるのかなと思っています。 高齢者の話でいくと、去年、田原市渥美半島田原市にお邪魔して、いくつか学校回りましたが、高松小学校というところは、学校カフェというのをやっていて、それは地域の高齢者たちがみんな学校に集まってみんなでお茶を飲んで集いをやったり、後こどもたちがそこに一緒に入って一緒にお茶を飲んでおしゃべりしたりと、実は社会福祉協議会の地域サロンの取り組みなんです。地域サロンを学校でやっておもうと隔月ぐらいで学校には来ていて他の場所も使っているのですが、うちの学生も一緒にそこへ入らせてもらっておしゃべりしたんですけども、参加者は隔月ぐらいがちょうどいいと言っていましたと学生が言っていました。繋がりづくりを地域学校協働で地域福祉と、連携してそれがやれるということですし、不登校のこどもたちの居場所づくりも地域学校協働の中で、地域の人もこの見守りに一緒に入ってもらって、今こんなフリースクールを、全中学校でやってらっしゃるっていうふうにお話を聞きまして、まだその様子を僕も見に行っていないですけども、作っただけでは駄目で、どんな雰囲気でもんな場所を作っているのが大事だと思うし、或いはそこで例えば僕は他のところで見に行ったときも、カードゲームやったり、昼寝していたりとか、結構そこで自由な子供たちの姿って、それを他のこどもたちが見て、うらやましいとか、あいつらだけ最良されているじゃないかというふうに思ってしまったら駄目ですよ。だから校内フリースクール以外のこどもたちもそ

今瀬委員長	この中学校で充実した生活を送れなければ、校内フリースクールというのは生きてこないっていいですかね。 こういうフリースクールづくりというのは、学校づくり全体に関わるということと、教職員だけじゃなくて地域の人たちがどう参加をしていくのかといったことを結びつけて考えていただきたいし、今日の初めのお話にもありましたが、PTAの加入率が減ってきたってのはやっぱり少し心配です。こどもが減ってきたのもそうですけども、こどもがその地域に出る場所がなくなるというだけではなくて、その前に親が孤立しているということですね。親仲間がなくなってしまうと、孤立した子育ての中ではこどももちろん孤立していくわけですから、親がどうやって繋がっていくかということを、社会教育の立場からやはり考えていかないといけないのではないかなというふうに思います。そのために地域学校協働を使えないだろうか。PTAと地域学校協働の活動をつなげていくということをやっている自治体もあります。PTAも役員になると大変という話がありますけども、やれるところでやろうというふうにPTAを変えてきているところもあります。今みんな仕事していますから、忙しい中隙間時間でどうやっていくのかという工夫を地域学校協働の中で、みんなで考える場所をぜひ作っていただきたいと思います。 なので、今日の御報告は講座ばかりだと思いますが、出前講座、或いはアウトリーチとか、そういった活動もやはりその社会教育の事業としてちゃんと位置付けて欲しいということと、地域学校協働に、社会教育の立場でそれをどう支えていくのかという、そういう事業化が欲しいと思いました。先ほど中山さんの御意見もありましたけど、その地域学校協働に集まってくる住民を支えていくためには横の繋がりがって大事なので、研修の機会を作っていただきたいです。 あと、生涯学習推進課の皆さんの御努力ってすごいなと思いましたが、講座が少し多過ぎるじゃないかと思ってまして、これやるのは大変でしょうと思います。それをかなり任せてしまっていていいじゃないか、つまり地域学校協働のところで、予算も渡す企画の権限も渡すという、まずは自由にやってみてそのサポートを教育委員会の方でやっていくということであれば、そこに集まってきた人たちが自分たちでそういう講座とか事業を考えて展開できると。そこでまた高齢者の方のバスツアーも活用できるかもしれないし、その地域にはどういう活動が必要だろうかというのを住民の方々に考えてもらうというふうに住民の方に講座を考え実施するといったことを譲っていくことで、教育委員会の皆さんも働き方が変わるでしょうね。講座を企画して実施するっていうところに力を割くのではなくて、そういうことをやっていく住民の方を支えるという仕事の仕方にシフトしていただくと、良いのではないかなというふうに思いました。 資料館の方もぜひ学校へのアウトリーチやこども向けのワークショップをどんどん開発していただけるといいかなというふうには思います。もちろん保育所、幼稚園もそうです。 先ほどスポーツで親子体操がなくなったっていうのはちょっとショックで、やはりそういう場をもちろんアウトリーチでやるっていう手もありますし、それから小学校でそれをやることで、就学前とその就学後のギャップをなくしていくということもできますので、そういった意味では地域学校協働で、就学前のこどもたち向けの事業を考えていただくということもやってもいいじゃないかなっていう気もいたしました。 ありがとうございました。大村先生から御指導がありましたので、しっかり受けとめてっていうことと、新しく令和7年度の会がまたありますよね。社会教育全般、今本当に地域学校協働活動が各学校でどういうふうに進んでいるかという御報告もいただけるとありがたいかなと思いますし、私たち研修に出て
--------------	---

	も社会教育委員さんがいろんな研修で地域学校協働活動について聞いて勉強しているので、ぜひ各学校の学校運営部会でもいいし、地域学校推進員さんの一員でもいいので、地域に入っていって社会教育委員さんがコーディネーターとかリーダー的立場をとるといいですねっていうのはそんな研修を受けていますので使っていただければと思います。 講座事業だけではなくて、先ほど御指導いただいたことまたよろしくお願ひしたいと思います。 取りまとめが長くなってしまいましたが、報告については以上です。その他、最後に事務局の方によろしいでしょうか。
二子石生涯学習推進課長	資料の最後のページ39ページ、令和7年度の各種大会の予定の説明をさせていただきます。令和7年度の各種大会の予定でございます。社会教育委員の皆さんに出席をお願いするものにつきましては、愛知県社会教育連絡協議会が開催いたします評議委員会総会が令和7年5月28日、東海北陸社会教育研究大会が10月3日に開催されます。 また、県社連県公連合同の愛知地域づくり推進大会が令和8年1月29日に開催されますので、いずれにしましても、日にちが近づいて参りましたら改めて御案内をさせていただきます。 ここで一旦次第に戻っていただきまして、3その他(2)令和8年度以降のみよし市の事例発表当番について御説明をさせていただきます。令和8年と10年に県社連・県公連合同の研修会におきまして、みよし市が発表する当番が参ります。取り急ぎ令和8年度の発表内容につきまして、令和7年度中に詳細を決定して、発表に向けて準備を進めていき資料作りの必要もでございます。また、年度が改まりましたら、御連絡をさせていただきますので、御承知だけよろしくお願ひいたします。以上です。
今瀬委員長	よろしいでしょうか。 以上をもちまして本日の協議事項は全て終了いたしました。令和8年度は社会教育の分野でのみよしの発表ですので、事務局の方もまた頑張ってくださいと思います。私たちが協力していきたいと思います。皆様の御協力ありがとうございました。以上で協議を終了したいと思います。事務局へお返しいたします。
伊豆原生涯学習推進課副主幹	ありがとうございました。教育長の方からお礼を述べさせていただきます。
増岡教育長	皆さん熱心に御意見賜りましてありがとうございました。社会教育というのがみよしの地域づくりにみよしの未来を作っていく原動力になるように、また来年もぜひお力をお貸しください。 この間校長に1つ話をしたのが、少子化って今問題だと言っているんだけど、それよりももっと問題なのは、こどもを持ちたいっていう若者が少なくなっている社会が問題になっているんじゃないか、また自分の子もよその子も、可愛いって思える大人がもしかして減っているとしたら、そっちの方が少子化の大きな問題になるんじゃないかと言うことを言っている人がいるよって校長たちにお話をしました。今が過渡期だと思うんですね。今、踏ん張って次の教育計画も作らなきゃいけないし、みよしの教育現場とかまちづくりを進めていかなければと思いますので、どうか来年度もこちらに足を運んでいただけたらと思います。お力を貸してください。どうもありがとうございました。
伊豆原生涯学習推進課副主幹	本日は貴重な御意見ありがとうございました。以上をもちまして、令和6年度第2回社会教育委員会を終了いたします。みなさま御起立をお願いいたします。

	す。一同、礼。ありがとうございました。 会議は以上で終わります。お気をつけてお帰りください。
--	---